

①リード文から「棒」について記述されている箇所を書き抜きなさい。	②（１）「棒」になる前の状況を書き抜きなさい。	②（２）「棒」が落下したときの状況を書き抜きなさい。	②（３）「棒」が落下した後の状況を書き抜きなさい。	③（１）「棒」になる前に男が考えていたことを書き抜きなさい。	③（２）「棒」になった後に男が考えていたことを書き抜きなさい。	P196までで意味がわからない箇所があれば抜き出しましょう（ページ数と合わせて記載すること）
長さ1メートル二十センチばかりのごくありふれた棒 鋭い音をたてて跳ね返り	通風筒と階段の間の、一段低くなった手摺りにもたれて、ぼんやりしたの雑踏を眺めていた	くるくるまわりながら落ちてきて、いったん歩道の端に当たり、鋭い音をたてて跳ね返り、フーテンたちから一メートルと離れていない、縁石の外の窪みに横たわる	背中を搔いてよ 死にかけた魚みたいにピクッとしゃがった 棒を踏みつける	息子が俺を呼んだ	息子	
1メートル20センチ	目もくらむ思いでじっと耐えていた。息子に呼ばれる。息子が3分間10円の望遠鏡を覗いていた。	気づいたときには体が宙に浮いていた。棒になっていた。くるくる回りながら落ちる。	子供の父親が棒になって落下したところを見たのを主張している。フーテン男女を背中を搔くのに使われる。フーテン女に投げられる。フーテン男に踏まれる。死にかけた魚みたいにピクッと動いた。			
・ごくありふれた棒 ・くるくるまわりながら落ちてきて	その時、おれは、痛風筒と階段の間の、一段低くなった手摺りに持たれて、ぼんやりしたの雑踏を眺めていた。 目もくらむ思いでじっと耐えていた時、息子がおれを呼んだのだ。	とたんにおれの体は宙に浮いていた……あの子から逃げ出すつもりなんか、すこしもなかったのに……	なにも、踏んづけなくなつて……溝の中は、びしょびしょなんだぜ……風邪をひいっちゃうじゃないか			
	その時、おれは、通風筒と階段の間の、一段低くなった手摺にもたれ、ぼんやり下の雑踏を眺めていた。(p193 3行目～) (独白を続け)その吠えたてる都会の滝壺に、目もくらむ思いでじっと耐えていたとき、息子がおれを読んだのだ。三十分間十円の望遠鏡のぞきに、おれを誘おうとして……とたんにおれの体は宙に浮いていた……あの子から逃げ出すつもりなんか、すこしもなかったのに……棒になって……(p193 10行目～ p194 2行目)	くるくるまわりながら落ちてきて、いったん歩道の端に当り、鋭い音をたてて跳ね返り、フーテンたちから1メートルと離れていない、縁石の外のくぼみに横たわる。(p182 6行目～) おれが、屋上から、棒になって墜落したことを……(p189 1行目～)	「縁石の外のくぼみに横たわる。」(p.182) 「(この間、棒になった男は、フーテン男の手の動きに合わせて、体の一部をゆすりながら、視線は終始、空の何処か一点を見詰めつづけている)」(p.185) 「(苦悩に満ちた独白)」(p.188) 「その襟クビに棒を差し込み、搔いてやりはじめる)」(p.190) 「(棒を投げ出し)」(p.190) 「死にかけた魚みたいに、ピクッとしゃがった」(p.194) 「(地面に横になったまま、独白)」(p.194) 「棒を踏みつける」(p.195) 「(棒になった男、来たいと拒絶をないまぜにした、微妙で複雑な反応ー)」(p.195)			
長さ一メートル二十センチ	通風筒と階段の間の一段低くなった手すりにもたれていた。ぼんやり下の雑踏を眺めていた。吠えたてている都会の滝壺に目も眩む思いでじっと耐えていた。三十分十円の望遠鏡をのぞき俺を誘って呼んでいた。	フーテン男 「当たり所が悪かったら、いちころだぜ」 フーテン女 「どっちが、偶然だと思う、命中するのと、しないのと・・・」	・地獄の女のセリフ(歌?) 今日もまた男が1人姿を変えて棒になった 棒は溝の中に忘れられ街は俯いて渦をまき少年は消えた父親を探すのだ ・地獄の男 ぼくらには、1人の人間に関する、貴重な証拠物件でねしょうがないひとつ取引きといこうよ でもね、君、巧い商売をしたつもりかも知れないが、いずれ思い知らされるのさ、売った棒がただの棒なんかじゃなくて、実は君自身だってことをね ・フーテン男・女 棒で背中をかく 棒を踏みつけて、千円でどうだと交渉する			
・長さ1メートル20センチばかりのありふれた ・くるくる前割りながら落ちてきて、縁石の横のくぼみに横たわる。	・通風筒と階段の間の、一段低くなった手すりにもたれて、ぼんやりしたの雑踏を眺めていた。 ・子供が30分10円の望遠鏡のぞき	聞える……百万人の重さにふるえる、地鳴りを縫って、小さなゴムボールみたいにはずむ、あの子の足跡だ	なにも、踏んづけなくなつて……溝の中は、びしょびしょなんだぜ……風邪をひいっちゃうじゃないか！	・おれをさそおうとして……とたんにおれの体は宙に浮いていた……あの子から逃げ出すつもりなんか、すこしもなかったのに	・あの子は、私がおっこちるところを見てしまったんだ。 ・あの子は、訴えている……おれが、屋上から、棒になって墜落したことを	p 182 地獄の男のセリフ　夕暮の白い～

印刷

現在のシート

用紙サイズ

A4（21.0cm x 29.7cm）

ページの向き

横向き

縦向き

スケール

幅に合わせる

余白

標準

カスタムの改ページを設定

印刷形式

ヘッダーとフッター